

令和3年度 神河町社会福祉協議会 事業報告書

〈総 括〉

新型コロナウイルス感染症は、私たちの暮らしを一変させました。これまで地域の皆さんが創意工夫を重ねて継続してきたミニデイやふれあい喫茶は、3密を避けるためその多くが自粛となりました。コロナ禍が長引くにつれ、これらのつどい場ボランティアのモチベーションは下がり、これまでの疲弊感と相まって、残念ながらグループを解散するケースが増えています。社協はこの負の流れをくい止めるべく、あわせて高齢者が楽しみにし介護予防にもなっているつどい場に関わるボランティアが安心して活動を再開できるよう、新たなメニューを提示したり、感染への不安が解消するよう丁寧に相談に応じました。

また、コロナ禍により収入が減少したり職を失ったりし生活困窮に陥った方への支援対策として県社協から委託を受けている特例貸付けの受付業務は、期間の延長が度重なり、これまで50名を超える方に3千万円近い貸付手続きをおこないました。借受人の今後の生活状況の変化を注視しながら、生活困窮者支援をさらに強めていく必要性を感じています。

令和3年度は、社協の今後5カ年の地域福祉活動を示した第3次地域福祉推進計画の発効初年度でした。各種団体の総会の中止などが相次ぎ、計画書を詳しく説明する機会が減少しましたが、社協内の各部門から推進計画推進委員を選出し、定期的に話し合いをおこないつつ計画を推し進めています。多職種連携による課題解決については、まずは地域福祉部門と介護部門の連携強化を目的とした勉強会を開催しました。

不安を抱えた方のご自宅へも積極的に訪問し、丁寧に話をうかがいながら課題解決に向けて支援しています。また、地域の困りごとをひと花利用者の活躍の場に繋ぐひとつとして、「お墓そうじ代行サービス」と、コープこうべと連携した「見守り個配事業」をスタートさせました。住民の先への不安をなくすための取組みに、ひと花利用者が力を発揮しています。

障がいのある方、またはその家族が気軽に利用できる総合的な相談支援をおこなう「基幹相談支援センター」を、相談員を配置したうえで10月に開設しました。それに伴い、これまで嘱託職員だった職員を正規職員として登用しています。あわせて、何らかの介護が必要な障がい者（児）と一緒に暮らす家族の突発的な事情により一時的に介護を受けることが出来なくなった場合に、緊急かつ他の障がい者施設での受け入れが不可能な時に限り社協職員が一晩預かることを町に提案したところ、町が「障がい者等緊急時一時預かり事業」を立ち上げ、社協がその事業を受託しました。社協のひと花の建物は“障がい者の活動拠点施設”として位置づけられており、今後も障がい者（児）とその家族のニーズに応えていきます。

1. 法人組織運営

(1) 理事会・評議員会・監事監査

※○、□数字は議案番号を示す

開催日	会議の名称	協議内容	出席者
5月20日	決算監査	*令和2年度神河町社協の各事業ならびに会計監査	監事 2名 会長
5月25日	○第95回理事会	①令和2年度神河町社協事業報告並びに会計決算 ②評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦 ③任期満了に伴う役員候補者の選定 ④定時評議員会の招集ならびに提案議案承認	理事 9名 監事 2名
	第8回評議員選任解任委員会	*退任に伴う評議員候補者3名の選任 *任期満了に伴う新評議員候補者の選任	委員 3名 会長
6月16日	□第52回評議員会	①令和2年度神河町社協事業報告ならびに会計決算 ②任期満了に伴う理事及び監事の選任	評議員 23名 会長、副会長 監事 1名
6月16日	○第96回理事会	⑤会長、副会長の選定について	理事 8名 監事 2名
8月27日	○第97回理事会	*障がい者基幹相談支援センター開所延期と職員配置 *福祉給食サービス事業の下半期実施見通し	理事 7名 監事 2名
11月2日	中間監査	*令和3年度上半期の事業活動及び会計監査	監事 2名 会長
11月12日	○第98回理事会	⑥令和3年度神河町社協第1次補正予算(案) ⑦定款の一部変更について ⑧次回評議員会の招集ならびに提案議案の承認 *令和3年度中間監事監査の結果 *コープこうべと連携したひと花の「見守り個配事業」の開始	理事 7名 監事 2名
11月25日	□第53回評議員会	③令和3年度神河町社協第1次補正予算の承認 ④定款の一部変更について *令和3年度中間監事監査の結果	評議員 20名 会長、副会長 監事 1名
2月22日	○第99回理事会	⑨令和3年度神河町社協第2次補正予算 ⑩令和4年度神河町社協事業計画と予算 ⑪次回評議員会の招集ならびに提案議案の承認	理事 8名 監事 2名
3月9日	□第54回評議員会	⑤令和3年度神河町社協第2次補正予算 ⑥令和4年度神河町社協事業計画と予算	評議員 21名 会長、副会長

(2) 住民や利用者等から指摘や苦情および業務中の事故について

- 【苦情等】 ・担当ケアマネジャーへ相談しても、返答が遅かったり、はっきり言わないことがあり、時に考えを否定されていると感じることもある。(利用者家族/3月)
 ・指示と異なる商品の仕上がりになっていると納品先からクレームが入ったが、ひと花ではどのように品質管理をされているのか。(発注業者/3月)

- 【事故】 ・車両の物損事故 1件(介護職員/8月)
 ・交通事故被害 2件(介護職員/9月、介護職員1月)

(3) 職員数の増減

			令和4年4月	令和3年4月	年間の増減状況
常勤	正規	地域福祉職員	5名	5名	
		訪問介護員	4名	4名	
		介護支援専門員	4名	4名	
		多機能型事業職員	1名	0名	嘱託から登用+1
		相談支援専門員	1名	0名	嘱託から登用+1
	嘱託	訪問介護員	1名	1名	
		訪問入浴看護員	1名	1名	
		多機能型事業職員	3名	4名	正規へ登用-1
		相談支援専門員	0名	1名	正規へ登用-1
非常勤	登録	訪問介護員	5名	6名	退職-1
		訪問入浴介護員	2名	2名	
		訪問入浴看護員	2名	2名	
		訪問入浴運転員	1名	1名	
		多機能型事業職員	1名	1名	
		生活支援員	1名	1名	
合 計			32名	33名	

2. 自主財源の確保（募金・預託関係）

(1) 「善意の募金運動」

6月に各世帯へ、ポケットティッシュと使途説明書をつけて募金協力を呼びかけ、集落内の取りまとめを区長さんに依頼しました。募金の目安額はこれまでどおり300円。

年 度	募金額	前年度比較
1年度	1,067,712円	± 0.0%
2年度	1,046,235円	－ 1.0%
3年度	1,013,976円	－ 3.1%

※町内公共施設に設置の「窓口募金箱」実績を含む

(2) 社協会費

① 一般会費 6月に区長さんを通じ、一般会費について納入協力を求めました。

年 度	納入額	納入戸数	加入率
1 年度	3,366,000 円	3,366 戸	80.3%
2 年度	3,358,000 円	3,358 戸	80.1%
3 年度	3,379,000 円	3,379 戸	80.1%

② 特別会費 6月に町内 93 カ所の事業所に対して一口 1,000 円×口数の特別会費の納入協力を求めました。

年 度	納入額	内訳
1 年度	536,000 円	91 件
2 年度	517,000 円	84 件
3 年度	543,000 円	84 件

(3) 善意銀行預託

『社会のために少しでも役に立つことをしたい』という善意の気持ちを金銭でお預かりし、地域福祉の推進のために活用します。コロナ禍による葬儀スタイルの変化の影響もあって、寄付金額、件数の減少がさらに進んでおり、預託につながる啓発が必要。

年 度	預託総額 (円)	件数
1 年度	2,480,411 円	66 件
2 年度	2,384,501 円	85 件
3 年度	2,038,946 円	66 件

※社協事務所に設置の「窓口募金箱」実績を含む

3. 当事者を支援する活動

(1) 福祉給食サービス事業〔※共同募金配分事業（一部）〕

安否確認を目的として、概ね 75 歳以上の独居世帯等を対象に 1 食 200 円で夕食のお弁当を週 1 回配食しています。コロナ禍のため、調理ボランティアが実施できなかった際は、業者委託（神崎フード・にしはた・しあわせのひなた）に切り替え継続実施しました。

年度	利用者数	配食総数	調理ボランティア	配食ボランティア
1 年度	142 人	4,558 食	24 グループ	48 名
2 年度	132 人	4,288 食	26 グループ	45 名
3 年度	112 人	4,059 食	21 グループ	45 名

（２） まちの子育てひろば活動支援

申請のあった 6 団体に対し 30,000 円を上限に、総額 177,946 円の助成を行いました。
コロナ禍の影響で連絡会は開催できていません。

（３） たまゆらの会（介護者の会）事務局

新型コロナウイルスの影響で毎月開催している活動を見合わせるなか、グループ内で検討し、意見交換会とレクリエーション等の活動を 6 回行っています。

＊会員数 13 名 ＊社協助成 50,000 円

（４） 老人憩いの日設定事業

9 月に開催を予定していた町内の 75 歳以上の独居の方を対象にした本事業は、緊急事態宣言のため今年度も開催中止としました。代わりに 300 名余りの対象者へ、メッセージカードと社協ひと花が作った布マスクなどを、民生委員さんが友愛訪問を兼ねて配布しました。

（５） グリーフケアサロン

家族を失ったことで生じる喪失感や後悔の念を癒すためのつどい場を、介護者の会会員や町内の介護職員の協力も得ながら 3 月 27 日に開催し、11 名の方の参加がありました。
「誰にも言えないでいた話を聞いてもらい、気持ちが楽になった」という感想が出ました。

（６） 福祉バザーの開催

おゆずりプラザ開催時にタイアップし、社協「お互いさまやデー」として 10 月 31 日に福祉バザーを開催しました。住民さんから未使用の生活用品や食料品などの無償提供を受け、それを神崎支庁舎前で安価で販売し、収益は生活がひっ迫した方の電気料金を一時的に立替えるなどの緊急支援費用に充てています。また、ひと花の地域交流の場としても実施し、利用者への活動工賃として還元しました。

（７） 子育て世代支援事業 “おゆずりプラザ”

使用せずに眠っている子育て用品を社協が譲り受け、それを子育て中の方々へ無料あるいは安価で譲り渡す “おゆずりプラザ” を今年度も 10 月と 3 月の 2 回実施しました。延べ 110 名の町民に方々から預託いただき、延べ 90 組の子育て世代がプラザに来場しました。

（８） 歳末たすけあい募金配分活動

神河町共同募金会を通じて町民の方々にご協力いただいた歳末募金をもとに、社協が次の活動を実施しました。配分金総額は 1,573,238 円

- ① 在宅で介護が相当必要な方（48 人）へ見舞品を配布
- ② 就学援助受給児童、生徒（101 人）に支援金を配布
- ③ 生活困窮世帯（6 世帯）に支援金を配布
- ④ 独り暮らし高齢者等（11 人）への年末大掃除の代行サービスを提供
- ⑤ 町内の保育園（2 か所）へ知育玩具の購入を助成
- ⑥ 年末年始を独りで過ごされる独居高齢者（31 人）におせち弁当を配食
- ⑦ 1 歳を迎えたお子さん（49 人）に家計支援のための紙おむつを配布

4. 住民安心サービスの提供

(1) 生活福祉資金の貸付事業（※県社協からの委託事業）

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対し、資金の貸付けをおこなうことで経済的自立と、社会参加を促します。

新型コロナウイルスの影響で生活困窮に陥った方には、さらに新たに緊急小口資金、総合支援資金の特例貸付けの受付業務を令和2年3月から実施しています。

① 福祉資金 《生活課題の解決と自立を支援するための一時的費用》

→ 新規貸付や貸付償還中はなし

② 教育支援資金 《高校、大学等への入学のための費用や在学中の授業料》

→ 新規貸付0件。貸付状況は1件500,000円。滞納中。

③ 総合支援資金 《失業者が就労するまでの再建のための生活費用》

→ 新規貸付0件。現在の貸付状況は5件2,940,000円。そのすべてが滞納中。

④ 特例貸付【緊急小口資金】

《新型コロナウイルスの影響で休業し、緊急かつ一時的に生計維持が困難となった場合の生活費用》

→ 新規貸付17件、総計56件（貸付総額8,980,000円）。大半は償還据置期間中。

⑤ 特例貸付【総合支援資金】

《緊急小口資金の貸付けを受けてもなお生活困窮が続く場合の生活費用》

→ 新規貸付18件、総計36件（貸付総額20,700,000円）。償還は据置期間中。

(2) 生活保護受給予定者への一時支援資金貸付《※本会独自事業》

生活保護申請をしてから最初の保護費を受け取るまでに手持ちの生活費用が無い方に、役場担当課と相談しながら必要最低限の生活費を貸付けし、保護費受給時に一括返済してもらいます。今年度は相談が1件ありましたが、貸付けするまでには至っていません。

(3) 日常生活自立支援事業《※県社協委託事業》

「通帳が見当たらず何度も再発行する」「お金の計算に疎くなった」など、認知症や障がいなどにより判断能力が十分でない方の通帳や印鑑を預かり、日常の金銭管理を支援しています。利用者数は13名（新規利用3件、利用終了1件）。

(4) 「暮らしの安心相談」と、「法律相談」〔※共同募金配分事業〕

相談テーマを設け、その分野の有識者による相談と、行政相談委員と人権擁護委員が相談に応じる「暮らしの安心相談」を偶数月に、兵庫県弁護士会から派遣された弁護士による「法律相談」を奇数月に開催し、予約制のもと実施しています。

	暮らしの安心相談	法律相談
1年度	10件	29件
2年度	5件	24件
3年度	12件	30件

*暮らしの安心相談は役場関係課と協働で開催

（５）日常生活用具貸与事業

骨折や病気などで身体機能が一時的に低下された方へ、介護用ベッドや車いすの貸出し期間を定めたうえで、無料貸出ししています。なお電動ベッドは当初の計画どおり、令和３年６月末をもって貸出し終了としましたが、手動ベッドは引き続き貸出ししています。

	介護用ベッド	車椅子
１年度	１２件	２２件
２年度	１０件	２０件
３年度	３件	１４件

（６）介護用品の販売

町内に介護用品を販売している店舗や、配達可能な業者も増えてきたことから、当初の計画のもと、９月末をもって販売事業を終了しました。

	売上総額	前年度比較
１年度	３６６,６４２ 円	－３３.７%
２年度	３１４,０５０ 円	－１４.３%
３年度	１４４,７４０ 円	

（７）外出困難者支援サービス事業〔※共同募金配分事業〕

道路運送法に定める「福祉有償運送事業」として、車椅子を要する方を対象に、スロープ付の福祉車両を用いて神崎総合病院等へ受診のための送迎を実施しています。（期日前選挙送迎含む）今年度はコロナワクチン接種の送迎の協力もしており、２７人が３７回利用されています。

	利用者数	利用回数
１年度	３５ 人	４９９ 回
２年度	１８ 人	３１５ 回
３年度	２４ 人	２８４ 回

（８）福祉車両の貸出し

歩行が困難な方の家族に、車いすのまま乗れる福祉車両（平成 ２５ 年度姫路十字会寄贈）の無料貸出しを行っています。無記名式の自動車保険に加入し、運転者の運転免許証の確認をおこなうなど、安全な事業運営に努めており、貸出し中の人身・車両事故はありません。

	貸出回数
１年度	１１３ 回
２年度	７５ 回
３年度	７７ 回

（９）お買い物送迎サービス

車を持たない高齢者の買物支援を目的に毎月 １ 回、自宅から栗賀町のスーパーマーケットまで、町内全域を対象に ３ ルートを設定し、乗り合いでのお買い物送迎を実施しています。今年度の新規利用登録者は３名のみにとどまり、広報紙で本事業の周知を図り利用を呼びかけました。

	延べ利用者数
1 年度	195 人
2 年度	162 人
3 年度	126 人

(10) 生活支援コーディネーター委託事業

協議体の活動状況を周知するため、ケーブルテレビのまちかどウィークリーで、すべての集落協議体（14 集落）の紹介をおこないました。

協議体では、福祉防災マップの作成や災害時の対応に関すること、通院の支援に関すること等、集落それぞれの課題に沿った取り組みを支援しています。

また、シニアカレッジ教養講座の公開講座(8/12 開催)において、高齢者の社会参加と介護予防をテーマにした講演をおこないました。

今年度も感染拡大予防の影響により協議体の会議や地域のつどい場の開催中止が相次ぎ、つどい場ボランティアが解散する集落も増えています。それにより地域の繋がり希薄化に拍車がかかることが懸念され、コロナ禍に対応した地域支援のあり方を模索した 1 年でした。

(11) 見守り活動等助成金《H28 年度から 5 か年の時限事業》

協議体等において、健康寿命の延伸とお互い様の助け合いの仕組みづくりに積極的に取り組む集落に対し、10 万円を上限に助成してきました。

コロナ禍の影響により 1 年間事業を延長しましたが、新たな申請はなく今年度末で事業を終了しました。

	助成状況	助成額
1 年度	4 件（福本、大山、栗賀町、為信）	400,000 円
2 年度	実績なし	0 円
3 年度	実績なし	0 円

(12) 見守り個配サービス

コープこうべと連携し、高齢者の見守り活動を兼ねて、ひと花が令和 4 年 1 月から毎週 1 回、見守り個配サービスを実施するようになりました。ひと花利用者さんが職員と一緒に、注文されたコープ商品を自宅に届け、安否確認をおこなっています。配達手数料は 1 回 200 円で、現在 7 名の方が利用されています。

5. 福祉学習・福祉啓発の取り組み

(1) ボランティア推進活動校助成事業〔※共同募金配分事業〕

福祉学習、ボランティア活動に取り組まれる学校に対して助成事業で、町内すべての学校（5 校）から申請があり、総額 416,086 円を助成しました。

〈助成額〉	・ 神崎高校	… 100,000 円	・ 神河中学校	… 16,123 円
	・ 長谷小学校	… 100,000 円	・ 寺前小学校	… 99,963 円
	・ 神崎小学校	… 100,000 円		

（２） “ちょっといいこと運動”

夏休み期間に、小中学生と神崎高校生に自分がしたちょっといいことや、他人からされたいいことをカードに書いてもらいました。「近所の人に挨拶したら、挨拶が返ってきた」「気分が落ち込んでいる時に友達が優しく声をかけてくれた」などの声が寄せられました。また、町民にも人からしてもらって嬉しかったことを投稿してもらい、それを社協広報紙で紹介しています。

（３） 福祉教育として学校等への出張講師

職員が学校へ出向き、地域福祉について説明を行いました。神崎高校では、車いすでの買い物体験を通じて、高齢者や障がい者と接する際の注意点を説明しました。また、寺前小学校では、地元民生委員さんとの交流体験を図り、高齢者を支えるボランティアが活躍されていることも説明しました。

・神崎高等学校（４回） ・寺前小学校（６回） ・神崎小学校（３回）

（４） トライやるウィーク受入れ

11月15日～19日までの期間中、神河中学校３名の生徒を受け入れました。生徒たちは社協の役割や活動などの説明を職員から受け、各事業所の職員と同行して利用者宅を訪問し、入浴介助や掃除などを体験したり、ひと花で利用者と一緒に作業を行いました。生徒からは「介護のお手伝いで利用者さんに喜ばれてうれしかった。」などの感想が聞けました。

（５） タイムレター

青少年の健全育成を願うため、中学３年生に親への感謝の気持ちを手紙に書いてもらい、それを社協が大切に保管し、10年後に家族のもとへ発送します。中学校の協力も得られ、今年度もほぼ全員となる108名の生徒の大事な手紙を預かりました。

6. ボランティア活動の推進

（１） ボランティア登録状況

ボランティア活動される方は、最初に社協ボランティアセンターへ活動登録されることでボランティア活動保険に自動加入となり、活動支援助成の申込み対象にもなります。活動者の高齢化やコロナ禍も影響し、グループの解散が続いています。3名の個人ボランティア登録があったに留まり、新規のグループ登録はありませんでした。

	3年度	2年度	1年度
グループボランティア	91団体	99団体	103団体
個人ボランティア	52名	50名	53名

（２） ボランティア活動支援助成

社協ボランティアセンターに登録し、年３回以上継続活動されるボランティア活動者に活動支援助成を行っており、49グループ（上限30,000円、新規立ち上げ50,000円）と、

個人ボランティア（上限 10,000 円）1 名へ総額 1,220,356 円を助成しました。コロナ禍で活動休止中が多く、例年 70 件程度の申請件数は減少しています。

（３） ミニデイや自身体操グループへの運営の協力、支援

コロナ禍の影響でほとんどのグループが活動の休止や縮小をされましたが、要望があったミニデイや自身体操に職員が積極的に出向き、映画鑑賞やレクリエーションの提供やボランティアさんとの意見交換をおこなっています。

（４） 善意の物品預託

住民の方々から預託いただいた善意の物品は、社協広報紙で紹介しながら適切に払い出しを行っています。

内 容	延べ件数	数量	払い出し先
雑巾	3	303 枚	町内の各学校へ ※一部保管中
衣類、肌着	17	多数	ワーカーズコープ、生活困窮者等へ
介護用品	15	多数	要介護の方へ ※一部保管中
ポータブルトイレ	2	2 点	1 点は災害時用として社協で保管
シャワーチェア	1	1 点	障がいをお持ちの方へ
マッサージチェア	1	1 点	ひと花へ
敷毛布、電気カーペット	2	2 点	ワーカーズコープへ
日用雑貨	6	多数	福祉バザー ※一部保管中
図書カードなど	1	4,500 円分	※保管中
手作りマスク	1	64 枚	窓口来所者へ配布
1.17 のつどい用ろうそく	1	150 個	1.17 のつどい実行委員会へ
お米	22	1,045 kg	生活困窮者、福祉施設等へ ※一部保管中

※保管期間を定めたうえで、どうしても払い出し先が見つからない場合は処分となります

使用済切手、ベルマークなどは延べ 101 件の預託をいただき、NPO 法人誕生日ありがとう運動本部へ送りました。

7. 居宅介護サービスの提供

☆ 居宅介護サービス〔4 事業総計〕

	報酬総額	前年度比較
1 年度	66,827,476 円	＋ 6.4%
2 年度	73,135,547 円	＋ 9.4%
3 年度	68,894,736 円	－ 5.8%

※介護プランを作成したり介護サービスを提供すれば、国や一部利用者から報酬が得られる

① 訪問介護事業〔自宅にて食事やトイレの介助、掃除や調理などのサービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
1 年度	22, 175, 657 円	+13. 9%
2 年度	26, 324, 840 円	+18. 7%
3 年度	25, 526, 809 円	－3. 0%

② 訪問入浴介護事業〔自宅へ浴槽を持ち込み、寝たきりの方の入浴サービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
1 年度	11, 146, 840 円	－ 3. 2%
2 年度	11, 568, 068 円	+ 3. 8%
3 年度	8, 293, 967 円	－28. 3%

③ 居宅介護支援事業〔要介護者が必要とする介護サービスの利用計画を作成〕

	事業報酬	前年度比較
1 年度	25, 371, 070 円	+ 5. 3%
2 年度	26, 002, 340 円	+ 2. 5%
3 年度	27, 864, 660 円	+ 7. 2%

④ 障害者自立支援 居宅介護・同行援護〔障がいのある方へのホームヘルプサービスを提供〕

	事業報酬	前年度比較
1 年度	8, 133, 909 円	+15. 7%
2 年度	9, 240, 299 円	+13. 6%
3 年度	7, 209, 300 円	－21. 9%

（１） 研修への講師派遣

兵庫県が実施するケアマネジャーの主任更新研修等において、本会の主任ケアマネジャーが兵庫県人材センター（神戸）などへ10回（述べ17日）出張し、講師を務めました。

（２） 介護職員育成研修事業

県指定の「介護福祉士実務者研修」の通信課程を、3年度は8月から2月まで開催したところ、町内外から14名が受講されました。“新たな介護人材を自らで養成していく”という趣旨に賛同いただいた町内の介護施設から協賛金を得ることができました。

8. 障がい者活動支援施設の運営

1）多機能型事業所ひと花〈令和2年12月開設〉

生活介護サービス・就労継続支援B型サービス〔利用者へ提供したサービスに対する報酬〕

	報酬総額
2 年度 〈4 カ月間〉	4, 846, 784 円
3 年度	23, 326, 562 円

9月に姫路十字会から物品購入の助成を受け、冷蔵庫を購入しました。

10 月に中播磨地区赤十字奉仕団から、ミシンの贈呈を受けました。

11 月に神河町赤十字奉仕団から、本棚、ホットカーペットなどの贈呈を受けました。

2) 指定特定相談支援事業所〔障がいのある方への介護サービス利用計画書を作成〕

	事業報酬	前年度比較
1 年度	1,090,000 円	－37.0%
2 年度	1,179,680 円	＋ 8.2%
3 年度	1,096,630 円	－7.0%

3) 神河町障がい者基幹相談支援センターの受託

障がい者やその家族の悩みに関する最初の相談窓口として、10 月からひと花建物内にセンターを設置し、専門の職員 1 名（兼務）を配置しました。当面は情報の収集と、ひろく住民や関係機関に周知をおこなってきました。今後は当事者団体の集まりに出向いて丁寧に説明をおこなったり、郡内 3 町の基幹による共同事業を展開します。

4) 神河町障がい者等緊急時一時預かり事業の受託

親が突然の病気などで同居する障がい者（児）をお世話する人がいないとなると、公的サービスの「短期入所」を利用することになりますが、その利用ができない場合に限り、ひと花の施設を使って、社協介護職員が付添いのもと、緊急で一晩お預かりするサービスを 7 月から実施しています。登録者は 6 名で、3 月に 1 回利用がありました。